

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成30年度技術情報第5号（ダイズ・サツマイモ・野菜類・花き類のチョウ目害虫）  
について（送付）

チョウ目害虫（ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ、ナカジロシタバ）について情報を取り  
まとめましたので送付します。今後の発生に注意してください。

## 平成30年度技術情報第5号

- 1 農作物名**           ダイズ、サツマイモ、  
野菜類（イチゴ、根深ネギ、サトイモ、キャベツ、サヤインゲン、サヤエンドウ等）、  
花き類
- 2 病害虫名**           チョウ目害虫（ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ、ナカジロシタバ）
- 3 予報内容**
  - （1）発生地域        県本土、熊毛地域
  - （2）発生量         やや多
- 4 予報の根拠**
  - （1）8月中旬に行った巡回調査でのハスモンヨトウ発生ほ場率は、イチゴで40%（平年21%）と平年よりやや高く、サトイモ等では発生程度の高いほ場も認められた。またサツマイモでは、ナカジロシタバの発生程度が高いほ場が認められる（表1）。
  - （2）県農業開発総合センター（南さつま市金峰町）及び同大隅支場（鹿屋市串良町）のフェロモントラップでのハスモンヨトウは、誘殺数が平年より多い傾向にある（図1）。
  - （3）同様にシロイチモジヨトウも、平年と比較して誘殺数が多く（図2）、ナカジロシタバは7月下旬～8月上旬に第2世代の誘殺ピークが認められた（図3）。
  - （4）今後は秋冬作各品目の作付けが始まるとともに、各対象害虫の増殖に好適な気象条件となることが見込まれることから、被害の増加が懸念される。
- 5 防除上注意すべき事項**
  - （1）ハスモンヨトウ若齢幼虫は集団で表皮を残して食害し白変葉を生じるので、ほ場を見回り早期発見に努める。
  - （2）卵塊や分散前の若齢幼虫を発見したら、速やかに寄生葉を摘み取り処分する。
  - （3）サツマイモに対するナカジロシタバの主要な加害世代は、8月以降の第3～4世代幼虫である。
  - （4）高齢幼虫に対する薬剤の効果は低いので、若齢幼虫のうちに防除する。
  - （5）施設栽培では、開口部に防虫ネットを設置し成虫の侵入を防ぐ。なお、成虫はネット上などにも産卵し、ふ化幼虫がネットの目をくぐり抜けて施設内に侵入することがあるので注意する。
  - （6）各系統剤の殺虫効果については、平成29年度技術情報第10号（平成29年9月27日付け）を参考にし、同一系統剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤とのローテーション散布に努める。

表1 巡回調査におけるチョウ目害虫の発生状況

対象害虫/作物名	発生ほ場率(%)			本年発生程度別ほ場率(%)					概評
	本年	前年	平年	甚	多	中	少	無	
<b>ハスモンヨトウ</b>									
サツマイモ	9	2	6	0	0	7	2	92	並
ダイズ	67	83	77	0	8	33	25	33	並
サトイモ	90	90	82	0	10	10	70	10	並
イチゴ	40	7	21	0	0	0	40	60	やや多
キク*	6	20	13	0	0	0	6	94	やや少
<b>ナカジロシタバ</b>									
サツマイモ	85	75	60	2	17	32	35	15	やや多

\* キクはチョウ目害虫の被害状況の調査（被害はハスモンヨトウが主体）

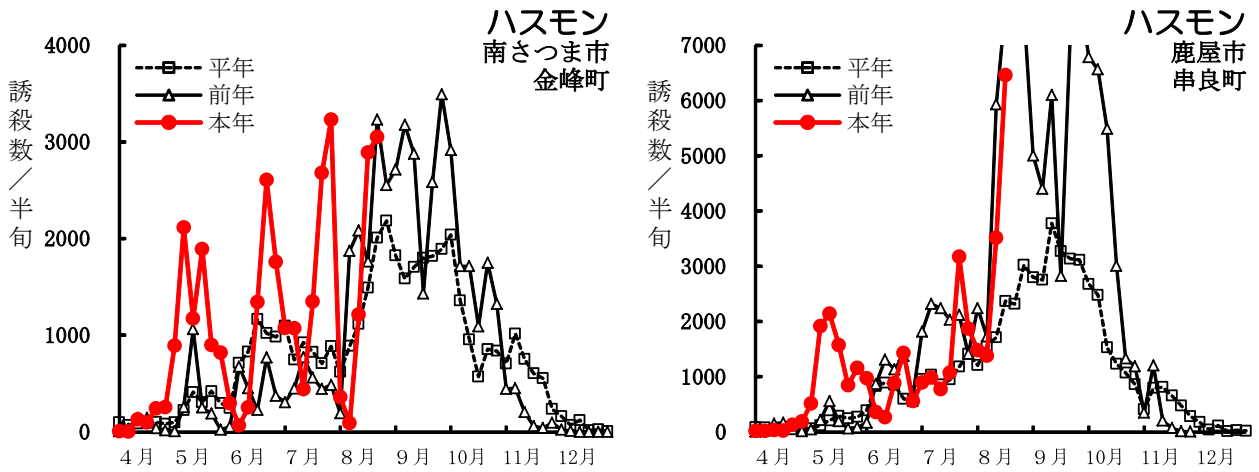


図1 フェロモントラップによるハスモンヨトウの誘殺状況（平成30年8月25日現在）

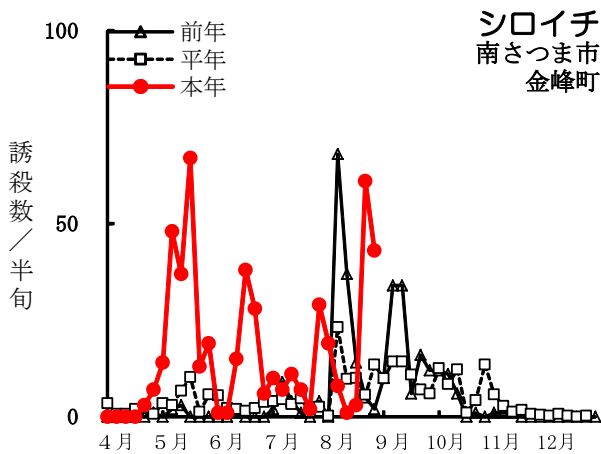


図2 フェロモントラップによるシロイチモジヨトウの誘殺状況（平成30年8月25日現在）

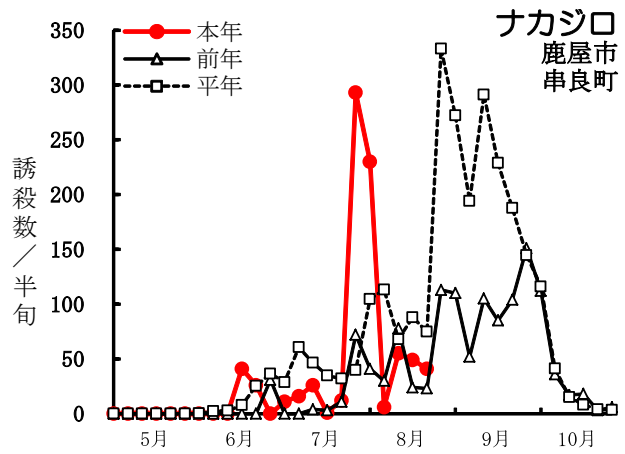


図3 糖蜜トラップによるナカジロシタバの誘殺状況（平成30年8月22日現在）

【参考】



図4 ハスモンヨトウ（左：老齢幼虫，右：成虫）  
黒褐紋（矢印）がハスモンヨトウにはあるが、シロイチモジヨトウにはない。



図5 シロイチモジヨトウ（左：老齢幼虫，右：成虫）



図6 ナカジロシタバ幼虫